

地区防災計画と「自己責任論」の不整合性

名古屋大学減災連携研究センター・田中隆文

1. はじめに

文脈依存性と個別具体性を無視できないケアの分野（家事や育児や介護など）は評価が難しく割に合わず弱者（女性や有色人種）に押し付けられてきた（チョドロウ 1981、ミラー 1989）。後者において「ケアの倫理」がギリガン（1982）によって見出され、トロント（2024）やヤング（2022）によってデモクラシーや国際社会問題に適用されてきた。

防災においても文脈依存性と個別具体性は重要である。本研究ではケアの分野とのアナロジーから地区防災計画など事前防災を整理し正義論や責任論から特徴をまとめた。

2. 方法

家庭における不払い労働の総称として家庭サービスの語を用いる。個別具体性の強弱を第1軸（横軸）とし文脈依存性の強弱を第2軸（縦軸）としこれと直交する第3軸として社会的公認の強弱を導入し八領域図とした。各領域にそれぞれ該当する家庭サービスを挙げた後、各領域の性質を分析した。次に、既往研究を参照し各領域にふさわしい責任論を探った。この領域図を事前防災に適用し地区防災計画制度が有する特色を整理した。

3. 結果

3. 1. 3軸の決定と八領域図の作成

個別具体性の対立概念を抽象性とし第1軸とした。個別具体性では個性が尊重されるが、対立概念の抽象性では名は伏せられ番号や記号で対応される。第2軸の文脈依存性の対立概念を普遍性とした。四領域に直交する「社会的公認～我流対処」軸（第3軸）を設定して八領域図とした。

3. 2. 家庭サービスの八領域図への分類（図1）

各領域にそれぞれ該当する家庭サービスを充てた。

【第1象限】弱者（女性や有色人種）に押し付けられてきたとフェミニズム研究で指摘されるケアの分野は第1象限である。これをいかに社会的公認側に振るかはフェミニズムの分野で課題となっていた（ヤング 2022、キティ 2023、岡野 2024）が、日本の介護保険制度を例示できる。

【第2象限】冠婚葬祭の実施時期や方法は、参加者の個別具体的な意思や事情よりも、様々なしがらみで決定されるなど文脈依存性が強い。正月・盆・クリスマスなどは列車ダイヤやTV特番や特別商戦など社会的に公認されている。

【第3象限】抽象性と普遍性が強い具体性と生活感とは捨象される。国勢調査結果で描かれる家庭像などが該当する。世帯主を代表とする家父長制的な概念的なカテゴリーである。税制における世帯としての家庭の扱いも該当する。

【第4象限】レジャー・行楽は様々なしがらみからの離脱という一面もあり、参加者の意向で自由に実施できるが、享受できる選択肢は人によって個別具体的に異なる。ディズニーランドやUSJのアトラクションの話題は全国共通で普遍性があるが、個人の個別具体的な嗜好も強い。

3. 3. 各領域の性格（図2）

【第1象限】即応必須だが客観評価が困難な雑務全般が含まれ、取組みは反復・やり直し・寄り添い・個別対応が要求される。現場が駆動する高い実効性が期待されるが効率を優先できない場合もある。

【第2象限】儀式やイベントなど実施すること自体に意義が置かれる。日常と乖離した「熱くなる」「燃える」と形容される没入性を有する。第3軸の我流対処とも社会的公認とも整合しやすい。

【第3象限】概念的なカテゴリーであり、指標化や評価も容易であるが、生活者との実感との乖離が生じやすい。そのため我流対処側に振れる事例はイメージしにくい。

【第4象限】自立した個人の自由選択が優先され社会的公認への期待は高くない。選択機会の偏りや非契約者の取り残しなどが欠点として指摘される。

3. 4. 正義論や責任論から見た各領域の特徴（図2）

「ケアの倫理」は正義論や責任論からの研究も多くありこれらを参照して上記の四領域を捉えた。まず第4象限から検討する。この領域は自立者による自由意思による選択・契約を前提とできるためドゥウォーキン（2002）の責任論を参照できる。第3象限は個別具体性や文脈依存性に囚われない概念的な領域であるためアリストテレスの正義論を基本とできる。文脈に依存する第2象限では「無知のヴェール」を用い個別の状況を考慮するロールズ（2022）の正義論が有効である。個別具体性が条件として加わる第1象限は対等な力関係を前提とできず、ヤング（2022）が提案する「社会的つながりモデル」がふさわしい。これは過去に遡及した帰責か免責かの議論ではなく未来志向的に社会構造の問題点を探り責任を分有する点に特徴をもつ。

3. 5. 各領域に該当する事前防災の取り組み (図3)

【第1象限】我流対処の例では個別具体性と文脈依存性がともに強い第1象限には地域の伝承や家訓が該当する。社会的公認側では様々な文脈や当事者の個別具体性を反映した地区防災計画が該当する。市町村役場への計画提案を経て地域防災計画に組み込まれ社会的公認性を獲得する。

【第2象限】我流対処の例では地域の防災訓練のためにトップダウン的に作成した手順書やメモ書きが挙げられる。

社会的公認側では役場主催の地域持ち回りの防災訓練で当該地区の事情を反映した内容のものが該当する。

【第3象限】我流対処の例では、防災の心構えを概念的に説く啓発書に基づく取り組みが該当する。社会的公認側では県の地域防災計画で汎用性や抽象性の強い記載が該当する。

【第4象限】自立者の自由意思による地震保険への加入や民間サービスとの契約などが挙げられる。

4. 考察

家庭サービスも事前防災も、第1象限と第4象限の性格の隔たりは大きい。第1象限の地区防災計画は、第4象限の自立者の自由選択に対する過去遡及的な責任論とは整合せず、ヤングの社会的つながりモデルが参考となろう。地区ガバナンスの構築による責任分有などの検討を進めたい。

文献

- チョドロウ, ナンシー, 大塚光子, 大内管子訳, 1981, 「母親業の再生産: 性差別の心理・社会的基盤」新曜社。
- ギリガン, キャロル, 川本隆史, 山辺恵理子, 米典子訳, 2022, 「もうひとつの声で—心理学の理論とケアの倫理—」風行社。
- ドゥワオーキン, ロナルド, 小林 公訳, 2002 「平等とは何か」木鐸社。
- 川本隆史, 2022, 「<共生>から考える—倫理学集中講義—」岩波書店。
- キテイ, F, エヴァ, 岡野八代, 牟田和恵監訳, 2023 「愛の労働あるいは依存とケアの正義論 新装版」白澤社。
- ミラー, ジーン, ベーカー, 河野貴代美訳, 1989, 「イエスバット フェミニズム心理学をめざして」新宿書房。
- 岡野八代, 2024, 「ケアの倫理—フェミニズムの政治思想—」岩波書店。
- ロールズ, ジョン, 神島裕子, 福間聡訳, 2022, 「政治的リベラリズム増補版」筑摩書房。
- トロント, ジョアン, 岡野八代, 相馬 直子, 池田直子, 富岡 薫, 對馬果莉訳, 2024, 「ケアリング デモクラシー」勁草書房。
- ヤング, アイリス, マリオン, 岡野八代, 池田直子訳, 2022, 「正義への責任」岩波書店。

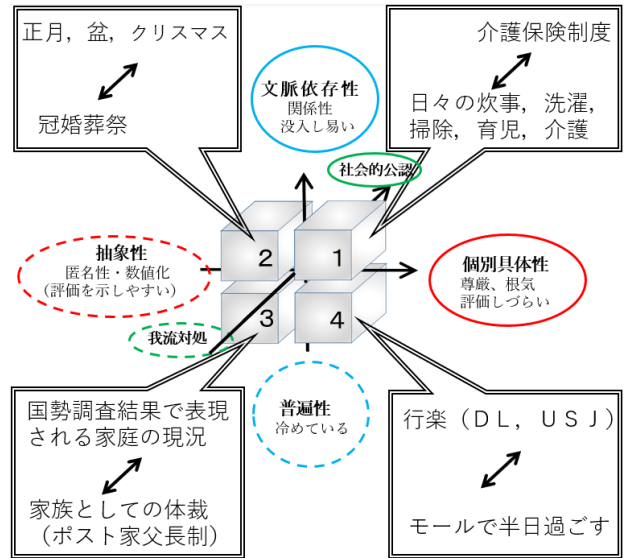


図1 家庭サービスの領域分類

四分された各領域内の矢印は第3軸を示し、上が社会的公認側、下が我流対処側を示す。

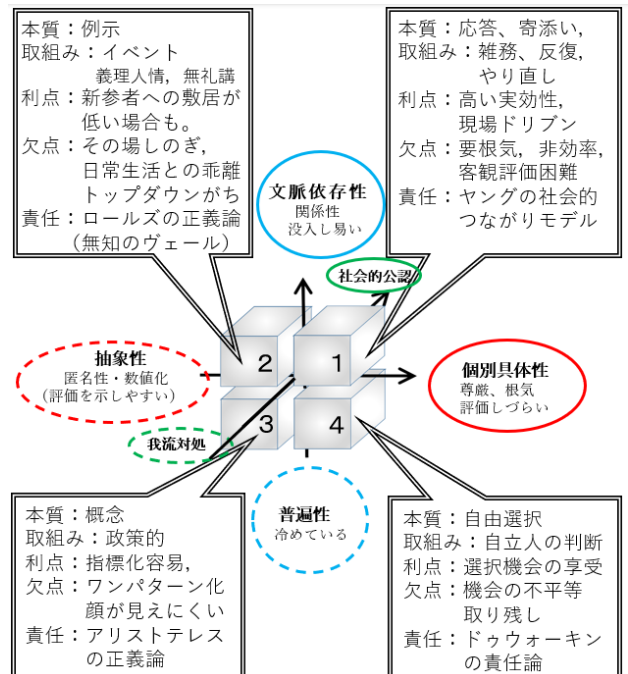


図2 各領域の性質

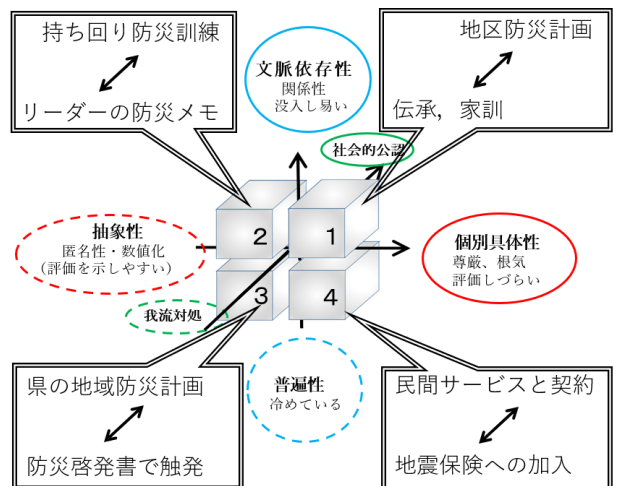


図3 領域図を用いた事前防災の分類